

# 糖尿病注意報発令中

## 糖尿病性腎症とは？vol.2

●問い合わせ 保健医療課健康支援室

☎53-2111(内線2441~2443)

### 尿検査の結果を見てみよう

先月号では、糖尿病の3大合併症の一つである「糖尿病性腎症」についてお伝えしました。

初期の糖尿病性腎症は自覚症状がないため、早期に発見するには定期的に検査を行い、腎臓の状態を確認していくことが大切となります。手軽にできる検査としては、市の健診で行っている血液検査や尿検査があります。

今回は、尿検査の検査方法や結果から分かることなどを紹介します。

### ■健診で行う尿検査について

尿検査では、尿の中に糖、蛋白、血液が含まれているかを検査します。

検査方法は試験紙を尿に浸し、決められた判定時間が経ったところで、それぞれの項目の色の変化によって判定する、試験紙法という方法で行います。

### ■尿検査から分かること

本来、体にとって必要な蛋白や糖などの成分は、水分と一緒に体内へ再吸収されるため尿に含まれることはありません。

糖尿病性腎症は、蛋白尿、潜血尿、高血圧、むくみなどの症状が現れますが、ほとんど自覚症状がないため、健

診などの尿検査で蛋白や潜血が陽性になることで発見されます。

### ■尿に糖、蛋白、血液が含まれてくるようになるの？

高血糖の状態が長く続くと、血液中のブドウ糖により腎臓の細小血管が傷つけられ、動脈硬化を起こします。そうすると、体に必要な物と不要な物を振り分けする処理がうまく行えなくなるため、本来は尿に含まれない糖や蛋白、血液が尿から排出されます。尿検査で糖、蛋白、潜血が陽性になるということは、腎臓に負担がかかり、腎機能が低下しているサインになります。

健診を受診した人は、ぜひ健診結果を確認してみてください。尿検査の項目に異常があった場合は、かかりつけ医に相談してください。

糖尿病性腎症は尿検査をきっかけに見つけることもあります。病気がある程度進行しないと尿に変化が出てこない場合があります。正しい診断には、尿検査だけでなく血液検査やその他の



▲健診での尿検査の様子

検査結果を総合的にみる必要があります。早期発見するため、健診を毎年受けて腎臓の状態を確認しましょう。

市の国民健康保険加入者(40~74歳)、後期高齢者医療保険加入者は、1月末日までお近くの医療機関で健診を受診することができます。詳しくはお問い合わせください。